

昭和期にみるイソップ寓話「犬とその影」の変容

谷出 千代子

仁愛大学人間生活学部

Studies in the Changes of Aesop's Fables through a Comparative Analysis of
"the dog and its shadow" in the Showa period.

Chiyoko TANIDE

Faculty of Human Life, Jin-ai University

イソップ寓話「犬とその影」について、昭和期の刊行物から変容の背景や書誌事項を分析してきた。結果、書名は時代の教育的背景を生かしたものが大半を占め、「ひらがなイソップ」系と「カタカナイソップ」系が目立つ。さらに全集本があふれ始めた時期と一致し、「世界童話全集」や「童話大系集」のシリーズ本の1冊としてイソップ寓話が取り上げられた。また「童話」としての翻案の扱いとイソップの「寓話」を重視した翻訳とに大別できた。さらに、作品名は、「犬と影」系、「大慾は無慾」の訓戒系、「欲ばりな犬」「小川をわたる犬」の解説風が主なものであった。

犬と肉塊との関わりは「一片の肉を銜えて…」でその入手法の記載なしが94%を占め、残り6%(2話)に関して「盗み」「肉塊を盗む行為」「盗みを否定する入手法」の描写であったことは注目に値する。肉塊ではなく「魚や魚の骨を銜えた犬」の話は皆無であった。

キーワード：犬と影、底本、翻訳者、絵本とイソップ、盗み

1. 問題の所在

イソップの寓話は海外の物語としては、日本に最も早く入って来た物語である。その話の確かな数には多くの異論があるまま今日に至っている。また、この寓話は人々の生き方の譬えや戒めとして、保育教育の教材とか、訓話の話題例として取り上げられ、広範に扱われている。その中に、現在市販されている保育教材制作手引書¹⁾で「よくばりないぬ(イソップ童話)」と冠した脚本が掲載されている。

「お腹のすいた犬が町へ行き、『肉を盗んでこよう』、と肉を盗みに行き、まんまと肉を盗んで町から帰ってきた」(傍線筆者)

といった描写で、筋運びはイソップ寓話「犬とその影」と近似したプロットで展開されている。

「盗んでこよう」「盗みに行き」「まんまと肉を盗んで」という表記が無造作に使用され、何の解説もないままに表記されていることに違和感をもった。

そこで、この表現のベースとなった原話は何か、時代を遡って分析を重ねて、先ず明治期・大正期の管見できた資料の範囲で分析を行い、第1報(谷出²⁾)を報告した。

結果、傍線部分の表現を中心にしながら明治期・大正期に翻訳、翻案、再話によって刊行された書と比較をした結果、2型の異質な表現部分を持つ物語の存在を検証することができた。

(1)当時の語学(英語)用テキストとして使用されたとみられる書や渡辺温(知新)『通俗伊蘇普物語 巻之一(明治五年)』³⁾に

犬。肉舗より肉一塊盗出し。引くわへたるま、…

のごとく「盗む」,またはこれらに類似した不穏な行動による肉の入手方法が記載された表記が, 明治年間5種, 大正年間5種, 計10種の出版物において認められた。

(2)『古活字本 伊曾保物語 国立国会図書館所蔵本・影印(江戸初期・慶長元和・寛永初期などの頃と言われている古活字版)』(勉誠社)⁴⁾にも, 原文ギリシャ語版を翻訳したという山本光雄訳『イソップ寓話集(昭和17年)』岩波文庫(岩波書店)⁵⁾においても, 「盗む」という表現は存在しない型の話であった。

以上のように検証してみると, どの話を底本として選択するかは, 原話選択の当事者や編者の意思, 思想性等に関与することも考察できた。

そこで, 本研究では, 第1報の分析を継続し, 次代昭和前期(18篇)と昭和後期(15篇)に出版されたイソップ寓話から, 「犬とその影」に限って, 書誌事項, 文章・絵画形態等の諸条件を時代背景と共に対比分析し, その訓蒙の意味, 役割, 表現の経緯を明らかにしようとするものである。なお, 33話の一覧は後述表1の対照表にて記す。記述は「作品番号〇〇」とする。

2. 底本の位置づけ

現在「イソップ寓話」の底本となるものとしては, 第1に, 天草のイエズス会学林で1593年(文禄2)に刊行された『天草版 伊曾保物語「エソポのハブラス」』⁶⁾が挙げられる。小堀桂一郎によれば,

ローマ字本『エソポのハブラス』の扉には〈ラティンを和して日本の口となすものなり〉といふ前書きが題名の下に印刷されゐる。即ちこの書の翻譯底本はラテン語本であつた, といふ断り書きである⁷⁾。

ということである。よって, 図1の大英図書館蔵 福島邦道解説の影印本(複製版⁸⁾)が「口語體を以て叙述されたローマ字本『エソポのハブラス』」で「明治42年, 新村出がロンドン大英博物館から弧本『エソポのハブラス』全巻を筆寫して歸つた」ものということで, 次のようである。

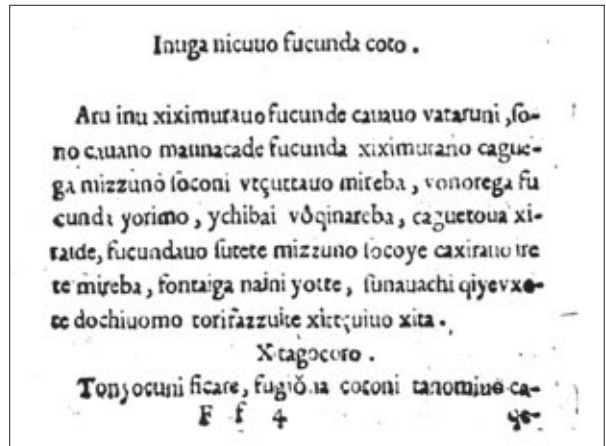


図1 『天草版 伊曾保物語』

犬が肉を含んだこと。(天草本上巻 第3話)

あるいぬ ししむらを ふくんで かわを わたるに, そのかわの まんなかで ふくんだ ししむらのかげが みずのそこに うつったを みれば, おのれが ふくんだよりも, いちばいおおきなれば, かげとは しらいで, ふくんだを すてて みずの そこへ かしらを 入れて みれば, ほんたいが ないによって, すなはち きへうせて どちらをも とりはづいて しつついを した。

したごころ

とんよくに ひかれ, ふぎおな ここに たのみを かけて わがてに もった ものを とりはづすなとゆうことぢゃ。(傍点筆者)

という表記にて読むことができる。

第2に, 図2『古活字本 伊曾保物語 国立国会図書館影印⁹⁾』が挙げられる。

これは, 『新村出 柗源一校注 日本古典全書 吉利支丹文学集下』¹⁰⁾とも, 『前田金五郎 森田武校注 日本古典文学大系 仮名草子集』¹¹⁾とも共有する國字本伊曾保物語古活字版ということになる。古活字本中巻における13話目に掲げられている。

十三 いぬと志、むらの事

あるいぬ 志、むらをくハへて河をわたる まんなか

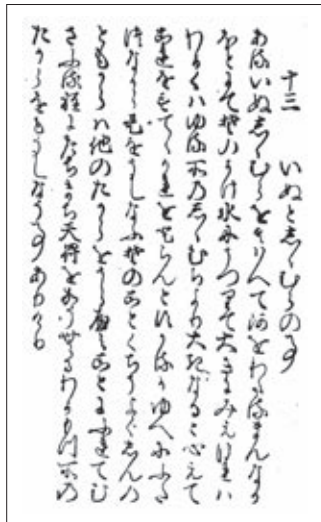


図2 『古活字本 伊曾保物語』

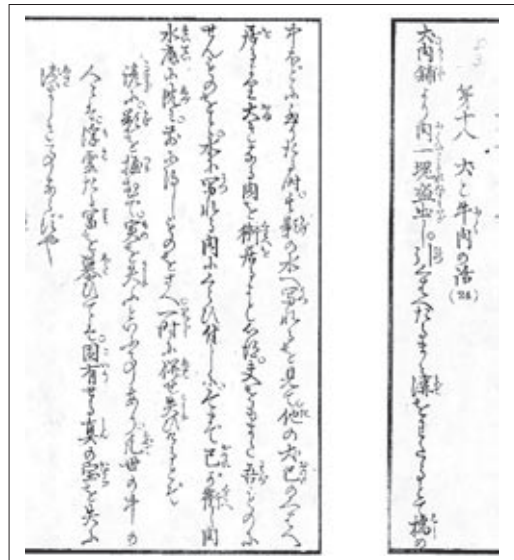


図3 渡辺温訳『通俗伊蘇普物語』

ほどにて そのかけ水にうつりて 大きにみえけれハ
わかくハゆる所の志、むらより大きなると心えて これをすて、かれをとらんとす かるかゆへに ふたつ
ながら是をうしなふ そのことく ちうよぐ志んのと
もからハ 他のたからをうらやミ ことにふれてむさ
ふる程に たちまち天罰をかうむる わかもつ所のた
からをも うしなう事ありけり

という話である。

さて、底本となるこれら2種に共通していることは、

- ①「盗む」行為が記されていないこと。
- ②川の中ほどにて犬が肉を銜えていることに気づく。
- ③肉の大きさを見てとり欲をだすこと。
- ④我が肉をすてること。
- ⑤訓蒙が記されていること。

など、ほぼ同一の描写がその筋立てにあって、片や外国の宣教師による訳書と、もう一方は日本人、ないし日本語に堪能な人によって訳出されたものとする。

第3に、「盗む」行為や「盗み」に対する対処法を記した書の存在を確認する。

図3、渡辺温訳『通俗伊蘇普物語 (明治5年)¹²⁾』が挙げられる。

第十八 犬と牛肉 (にく) の話

犬。肉舗より肉一塊盗出し。引くはへたるまま溝をわたるとて橋の中ほどに至りたる時、其影の水へ写れ

るを見て、他の犬己のくはへ居るより大きなる肉を銜居るよと心得。夫をもまた吾ものにせんものをと。水に写れる肉にくらひ付しに。今まで己が銜し肉水底に沈み。前に得しものをさへ一時に併せ失ひけるとぞ

諺に影を掴むで。実を失ふといふ事あり。凡世の中の人々は、浮雲たる富を慕ひては、固有せる真の宝を失ふ浅ましき事ならづや

これには「犬、肉舗より肉一塊盗出し。引くはへたるまま溝をわたる」とあり、犬は肉の一塊を肉舗より盗み出すことに相違ないが、その盗みに対する解説や対処法は見い出せない。

ところが、次のように盗みの行為是非論を解いた物語を挙げることもできる。

第4に、図4明治30年(1897) 譯術：栗野忠雄『AESOP'S FABLES 直譯講義全書 第壹篇 伊蘇普物語真譯講義 全』青野天章閣¹³⁾の中に、「犬及彼ノ影 (The Dog and his Shadow)」の話が存在する。

○犬ガ一度彼ノ晝飯ニ向テ肉ノ美キ片ヲ持チシ、或者ハ其レガ盗マレシコトヲ云フ然シナガラ他ノ者ハ其レガ屠牛者ニ依テ彼ニ與ヘラレタリシコトヲ云フ其レハ我等ハ場合デアリシヲ望ムデアラフ (傍線筆者)

「盗んだ」のではなく「肉屋(うしや)が犬に与えた」という展開を希望するという具合に方策を描き、

「盗み」の行為を望まない心情を記載している。

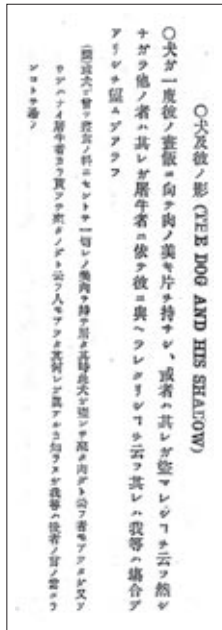


図4 譯術：栗野忠雄『AESOP'S FABLES直譯講義全書 第壹篇 伊蘇普物語 真譯講義』

さらに第5に、図5大正元年(1912)三版(明治44年初版)菅野徳助・奈倉次郎譯註『青年英文學叢書 AESOP'S FABLE』三省堂¹⁴⁾にも「犬と影(The Dog and his Shadow)」の話が見受けられる。

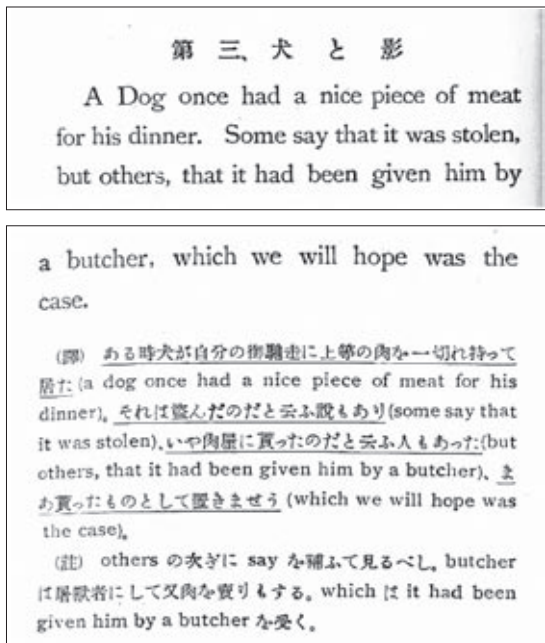


図5 菅野徳助・奈倉次郎譯註『青年英文學叢書 AESOP'S FABLE』

ある時犬が自分の御馳走に上等の肉を一切れ持って居た。それは盗んだのだと云ふ説もあり、いや肉屋に

貰ったのだと云ふ人もあった。まあ貰ったものとして置きませう。

A Dog once had a nice piece of meat for his dinner. Some say that it was stolen, but others, that it had been given him by a butcher, which we will hope was the case. (傍線筆者)

対日本語訳付きの話では、「貰ったものとして置きませう」と、肉の入手法を一方向的に決定づけ、やはり「盗み」に対する行為や表現を避けようとしていることが明白である。

上述のように、対英語で表記がなされていたりするものに「盗む」表記があることから、外国書においてはどうか確認をする。入手できたものの内から一部の分析を試みる。

一つに、村上勝也氏が『イソップ寓話』変容考—「犬が肉を含んだ事」について¹⁵⁾—と題して論述する中の、ギリシャ語訳・ラテン語訳についてみても「盗み」の語彙は見受けられない。

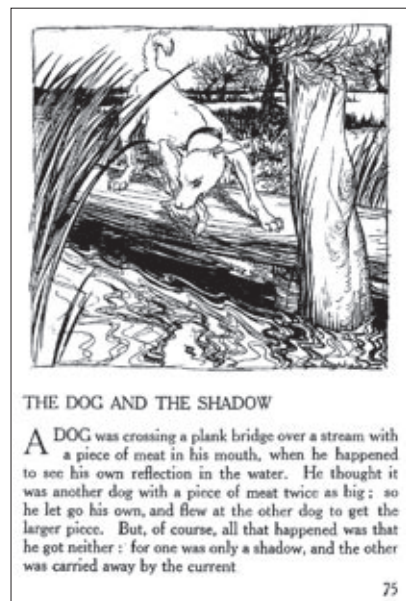


図6 NEW TRANSLATION: V·S·VERNON·JONES 『AESOP'S FABLES』

また、図6 NEW TRANSLATION: V·S·VERNON·JONES/INTRODUCTION: G·k·CHESTERTON/ILLUSTRATIONS: ARTHUR RACKHAM『AESOP'S FABLES』A FACSIMILE OF THE 1912 EDITION GRAMERCY BOOKS (NEW YORK)¹⁶⁾(277話採録)

において、

犬は1片の肉を口にくわえて、流れにかかった板の橋を渡っていく(訳:谷出)

ラテン語表記の1912年版を原本にして新しく英語に翻訳したものであるようだが、肉を銜えて橋をわたるところから話はスタートし、肉片の入手法については、全く触れていないことが明らかである。

拠って、第1報にて結論づけた2型の存在を再確認し、そのまま残すこととした。日本語に翻訳する際の典拠を明らかにすることは、この段階では未決としておく。

次いで、当研究の本題である昭和期に出版された「イソップ寓話」では上述の要因はどのような様相を呈しているのかを、ジャンル別に検証していきたい。

3. 絵本化されたイソップ寓話

イソップ寓話が絵本化されることは、昭和期に入ってから大幅に増えていったように見受けられるが、その中に「犬とその影」が収録されている絵本は多くはなかった。入手し得た範囲でみると次のようである。

6冊の絵本は、戦中1冊、戦後5冊の出版である。後述の、表1昭和期にみるイソップ寓話「犬とその影」分析対象作品一覧に、当研究では対象とした出版物リスト番号をベースに分析を進める。

(1)作品番号22 川端康成文/村上松次郎絵『トツパン繪物語イソップ1』に「1ぴきの犬が、肉屋から肉を一きれぬすみだしました」で始まる話がある。

川端康成が翻案か翻訳したのであるが、何をもって典拠としたかは定かでない。ただ、肉屋から肉を盗み出し、橋のところへ直行する筋運びとして単純に比較すると、これは、前述の渡辺温(知新)訳『通俗通俗伊蘇普物語』(明治5年)と類似しているように思われる。

(2)他の5冊(作品番号13・19・24・28・30)はいずれも「ほね」を銜えて橋上を通りかかるところから話が始まる。「骨」ないし「肉のついた骨」を銜えて登場

する話は、明治・大正期には存在しない。「魚の骨」というのは明治25年初版 青溪散史譯に『新譯伊蘇普物語』¹⁷⁾に1話見られるのみである。

一方、明治期から大正期の小学校2年生の教科書、例えば、明治37年文部省『尋常小學讀本二』¹⁸⁾では、肉に代わって「サカナ」そのままが登場する。一般的日本人における、犬には骨、猫には魚という既成概念による判断はここでは適合しない。

(3)文字表記は戦後間もない昭和21年までの2冊はカタカナ表記で、以後は平かな表記に統一されている。また、読者対象を考慮した「分かち書き」が全てに採用されていることも判明した。

(4)絵の描写はいずれも見開き1頁に全文が描かれ、次頁に跨って話が展開するところはない。犬については和犬の描写はなく、洋犬として検証できる。

場面展開は、5冊(作品番号13・19・22・24・30)は、犬が肉、ないし骨を銜えて橋上から水面を眺める風景1場面のみであるが、1話だけが、①骨を見つけるところ、②水面を覗き込み水影に驚くところ、③吠えて骨を落とすところ、④失敗に気づき悔しそうに水面を見遣るところ、と4場面にわたって描写されている。

彩色は昭和21年版(作品番号19)を除いて丁寧に彩色されており、鮮やかな色遣いである。昭和21年という時代背景からか、1冊のみセピア風の彩りで、絵本全体が簡素で地味な装丁で、紙質もカストリ紙に近いザラついたものであるが、納得できる場面作りがなされている。

こうして時代背景を考慮してみると、作品番号13 昭和12年版 八波則吉文¹⁹⁾ 黒崎義介絵『子供が良くなる講談社の繪本 イソップ繪話』は、昭和12年ごろという時代には不似合いな色遣いと多量な情報を広範に付け足した絵本である。タイトル前付の「子供が良くなる講談社の繪本」の強烈なコピーにしても、当時の出版界を制覇していた「大日本雄辨會講談社」の威力を強力に感じざるを得ない。

(4)訓蒙に関する表現は3冊に記載されている。

作品番号22「よくばりは、大ぞんのもとです。」昭和28年 川端康成

作品番号24「欲ばって、自分のたいせつなものを、見失うことがあります」昭和41年 奈街三郎

作品番号28「よくばると、いま もって いる ものまで なくして しまいます」昭和48年 編集／井上靖 顧問／波多野完治・湯川秀樹 以上である。

これら3作にはいずれも日本の文学史上、また、教育学史上において錚々たる作家、学者の面々が名を連ねている。果たして編集や顧問としての立場で作品にどこまで携わったのかは疑問が残る。著名人の名を連ねることだけで本の購買力が高まるということであろうか。

(5)作品番号13・19・22・28・30の話のタイトルについては、「よくばり」「よくばりな犬」「犬のよくばり」など5話は「欲張ること」を戒めた訓蒙をタイトルから想定できる表記となっている。



図7 昭和12年版



図8 昭和53年版

作品番号24ただ1話のみタイトルが「みずうつつたかげ」とある。これも、物語の虚実の見極めを説くタイトルといえる。従って、訓蒙の表現に留まらず、題名からも訓戒を説く形態が読み取れる。前述のごとく小学校教科書に繰り返して採択されることから、日本の子育て、教育の方向性において、こうした教訓を重要視した時代背景・教育理念が見えてくる。いわゆる道徳律に跳んだ内容を以て教訓をたれるというの

が好みであったことが窺える。

(6)昭和期の絵本として入手した中で最古(作品番号13)と最近(作品番号30)のものが図7・8である。

犬が絵本の進行方向を見て振り返っていることや、いずれも子犬のような描写で経験値の少ない犬の愚かさを暗示しているようにも解釈できる。ほとんど差異の無い構図であるが、文章表現には重要な表現箇所にも格差がある。

①図7には「ソノホネモ ホシクナッテ」吠えるというストーリーにつながる。しかし、図8にはなぜ吠えるのかその理由が書かれておらず、不明のままである。

②図7では「カハノナカニモ ホネヲ クハヘタイヌガ キルヤウニモミエマス」だから「吠えて取り上げようとする」という虚像を見間違える前提条件が描かれているが、図8には「じぶんの すがたを みたいぬは」吠えて骨を失うという文章である(傍点筆者)。自分の姿として見ているならこのような状況は起こらないことになるはずである。この点で矛盾が生じる。

③物語を翻案した作者は、図7は「八波則吉」と明示されているが、図8には画家名はあっても文章翻案者名がない。編集兼発行者名にのみ留まっている。これでは文章表現に対する責任者がいないことになる。最も必要な部分で無責任に言い逃れができるルートが作られていることが分かる。安価であっても責任ある内容を提示するのが出版社の使命で、その姿勢、信念が問われるところである。

いずれの作品も、骨を銜えている自分の姿に驚く場面の描写で、吠える直前を描いている。また、周辺の草叢や橋のつくりなどには、時代を超えた差異は見られなかった。

絵本としての絵の役割、すなわち文章表現を背景で支える役割、文章を絵で邪魔しない、文章の補足発展を出しすぎない程度に補充していくなど画家としての心意気は、それぞれの作品において役割を果たしていると解釈した。

4. 仮名表記にみる表現の特性

昭和2年菊池寛譯編『イソップ童話集』²⁰⁾におけるカタカナ表記8話と漢字仮名交じり表記73話の合計81話が1冊の中に混在して収録されている。これは時代背景を写す産物と言えよう。文字を習得しながら、物語を鑑賞する機会を提示するという二役を担うにはこうした表現形態をもった書は受容が高かったのではないかと推測する。

片仮名は国語表記に用いる48個を一組とする音節文字で、明治33年小学校令施行規則によって字体が定まった。国定教科書にも多く片仮名が用いられ、「欲ふかあき犬の話」は、明治20年以後国定教科書に、ある時は全文片仮名で描写されたり、またある時は漢字仮名交じり文であったりして、頻繁に教材として使用されてきた。

日本語には表意性のある漢字と表音性を有する平仮名・片仮名が用いられて文章を構成することは周知のとおりである。内容を視覚的視点から解釈する際には漢字仮名交じりの表記の方が意味を即座に解釈でき、即効性があることも容易に理解できることである。しかし、そんな中で片仮名を使用した理由も判る。

学制が布かれ教育を受けることが義務付けられた明治5年頃当時の学校教育では、低学年児に対して直線的で読みやすく覚えやすいという漢字から転移した平かなや片仮名への配慮があったとも考えられる。本来片仮名は、史的には漢語や仏典の訓點に用いられて発達してきた背景がある。明治期以後もその形態は継承されながら、戦後の表記統一によって、漢字仮名交じり表記になるまではそのまま継続されてきた。その教育史上の流れは、明治期から昭和期に刊行された子ども向けお話などの表記にも共通していた。一連の史的背景と連動するところが明確化された。

当時の片仮名表記にも、平仮名表記にも漢字交じりの表現は存在する。しかもそれは明治期より継続していることも実証できた。

ただ、前述の明治20年の尋常小學讀本は、図9のごとく、2年生にしては大変難しい漢字を用いて表記していることが分かる。その点、図10の片仮名表記はルビを用いる必要性も無く判読しやすい教科書で

あった印象が残る。

その点からみると、明治期とは違って昭和期の片仮名、平仮名表記の話(作品番号1・5・8・9・11・14・16の7作品)は、たとえ漢字仮名交じり文であっても読者年齢に配慮した表記で読みやすさを感じる。

表現内容にも「盗む」行為を記述した話は1話も取り上げられていない。これは、明治期より教科書として取り扱われてきた流れが影響しているとも考えられる。タイトルだけではなく、話の当初から「大ヘンヨクバリナ犬ガ アリマシタ」と欲張りを強調して犬の印象を徹底的に悪者扱いする物語が半数ある。しかも、例えば「カナ・イソップ」とか「ひらがなイソップ」のように、片仮名や平仮名表記を書名のタイトルに明記しているのも、この時代の特徴といえる。さらに、片仮名表記の書は絵本を除いて昭和13年以後出回る量が減少したのか、入手困難になったことも事実である。国語表記に関する統一や指示が出始めたころと一致する。さらにこの年あたりからは、戦争によって世の中が短絡的思考に走り、子どもの書物も「俗悪非道の商品」が横行した。そこで「児童読み物に関する指示要項」という告示が国から出され、取り締まりが強化された市場の背景なども刊行物の出回り方と一致する。

5. 訳者の翻訳、翻案に対する姿勢

まずは、新村出の作品について検討する。

「明治42年、新村出がロンドン大英博物館から弧本『エソポのハプラス』全巻を筆寫して歸つた」と前述したように、大英博物館に日参して筆写の許可をとった新村の行動は、イソップ寓話に対する執念のみに留まらず、今日の日本におけるイソップ寓話の位置づけやその背景に大きな功績を残したといえる。

ここで彼の訳書、作品番号3 昭和4年 新村出譯『日本児童文庫イソップ物語』、作品番号17 昭和13年 新村出譯『少年少女世界文庫 第十五編 イソップ物語』、作品番号20 昭和22年 新村出『イソップ物語』の三作を吟味する。

(1)三作ともに、物語の描写は全文が同じであること。

その中で特に他の作者や訳者にみられない描写が新村作品には見受けられる。



図9 明治20年(1887)『尋常小學讀本二 窓深き犬の話』文部省編輯局²¹⁾

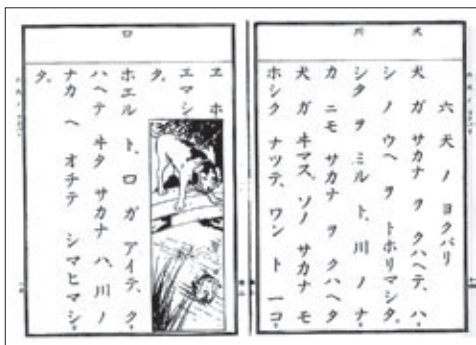


図10 明治37年1904『尋常小學讀本二 話のタイトルなし』文部省²²⁾

タイトルと冒頭、及び末文の描写を記すと次のようである。

①タイトル 小川をわたる犬

②冒頭の文章表現

しづかな森かげ。澄みきつた小川が、音もたてずに、流れてゐます。

水のおもてに、白い雲も、うつつてゐます。

1ぴきの犬が、いそいそと、その板橋を、とほりかへります。

③末尾の文章表現

犬が、なんにも、くはへないで、しょんぼり、かへつてゆきます。

静かな森かげ。元のとほりに澄みかへつた小川には、

やっぱり白い雲がうつつてゐます。

ここで物語は終了する。冒頭と末尾の「しづかな」の表記が平仮名と漢字表記の違いがあるが、いずれも情景描写にはじまり、情景描写で締め括る場面や、その直前の描写で、犬の「いそいそ」「しょんぼり」した様子を克明に描写しているところに特色がある。天草本の原本を入手するために貢献した新村の作にしては、多分に私情が盛り込まれた筋立てと思われる。したがって、翻案の色濃い作品に仕立て上げられた様相を拭えない。

(2)この新村作品に類似した話を見ることができた。作品番号9 初版1933(S8)年 第38版1936(S11)年 谷崎伸編『キンランセカイメイイチヨ イソップものがたり カタカナ1年生』金蘭社 である。

新村作品を模したか、モデルとして念頭に置きながら翻案したのではないかと推測する。

いずれもにしても、場面設定を含めて起承転結の構成は整っていてイメージ構築しやすく読みやすいストーリーであることに違いない。しかし、昔話(民話)と同様に、寓話の伝承のされ方に置いても、口誦伝承から文字伝承への推移の過程で、プロットに多くの装飾を施した話は伝承させるに当って大変混乱を招きやすい。本来なら採択に際して善し悪しの判断を余儀なくされる作品のように思う。

ただ新村自身、作品番号20のあとがきにおいて次のように叙述する。

- ・このイソップのおはなしは、普通わが國に行はれるイソップ物語といふおはなしとは、あちこち趣がちがふことを、読者もお心づきかと思ひます。
- ・中世近古の流れを汲み、近世ヨーロッパに行はれてゐたところの、むしろ古めかしい形を具へてをるのです。
- ・かういふ傳統の本に基いて、更にそれを現代化して、私が作りなほしたものが、今みなさんに読んでいただいた此の一冊なのです。

と、この話の出自に関して、作者新村の意図するところが詳細に書き綴つてある。新村自身の物語への熱

い思いを汲み取ることもできる。しかし、第1章で底本を探求した段階でも述べたが、物語の骨子を端的に伝えることこそ、寓意性や訓蒙を狙って採択したという方向性から考えると、新村の作品に関してはやはり不適切で、望ましい行為ではないと解釈した。

それは筆者のみの見解ではなく、例えば、松村武雄も『イソップ寓話集』の解説²³⁾において、次のように寓話の要素を記している。

- (1) 記述そのもの
- (2) 記述から引き出される寓意(モーラル)
- (3) 記述に誘き入れられた仮作的人物の個性の明確と注意深い支持

そして、ドズレーの見解を借用して、「イソップの寓意は、簡単明白にその寓話におりこまれている」(傍線筆者)ことから、物語は簡単明白に綴られることを善しとする考え方を付記しておきたい。

第2に、山崎光子とイソップ寓話集について検証する。

山崎光子は1919年生まれで没年は不詳。今日でも山崎の訳書は古書店頭で扱われている。

伊蘇普寓話集をはじめとして、ゲスタ・ロマノールム、西班牙童話集、土耳其童話集、フィルツシ童話集、フェードルス寓話集、波斯神仙譚、ペンタメロネなど各国の昔話の訳書を手掛けている。

そこで、山崎が翻訳や編集に携わったイソップ寓話に限ってみると、昭和5年から昭和10年ごろに集中して刊行されている。この間に5冊、しかもいずれも「世界童話全集」「世界童話大系」に限られて出版されている。

事例として 作品番号4 山崎光子譯 武井武雄繪 解題：松村武雄・中村白葉『世界童話大系XV111イソップ寓話集』を挙げてみる。

当該書の初版は松元竹二編輯者、小川菊松発行者で「誠文堂」より刊行された。誠文堂は、東京都文京区に本社を置く日本の出版社で、1912年に小川菊松が誠文堂として創業。その後1935年に新光社を吸収合併して、現在も営業しているが、今日の出版物の傾向やジャンルは当時と全く異質なものである。

この書が昭和9年には編輯者は同一人物で、発行者

が小川良雄に代わり、「金正堂」という出版社名で5版を重ねる。さらに昭和12年版では同一編輯・発行者で10版を重ね、次年昭和13年には同一人物で20版を重ねるといふ繁栄ぶりを残す結果が記されている。「金正堂」の存在は、別途、松村武雄／訳、初山滋／画、松元竹二／編輯『イギリス童話集』の刊行物から見ても判断できるように、当の誠文堂から刊行された内容やジャンルと類似した書を発刊しているところから推測し、編集者共々誠文堂から独立したか、出版物ジャンルを分別して特性を持った出版社として別れたかなど考えられる。小川菊松から小川良雄に代わるのは歴代親族型か分裂型かいずれかの憶測も成立する。そして、多数の版を重ねたことは、それだけの購買力の確かさを示すバロメータともいえよう。

いずれにしても出版社の異同とは無関係に、「世界童話大系イソップ寓話集」の内容、解説、編集等は初版以来「山崎光子」同一人物と同一内容で刊行されている。今日の出版業界と同様、時代を反映させる史的事実として検証できる。また山崎光子は、ギリシャ語、ドイツ語、スペイン語等語学に長けた人物であることも窺い知るところとなった。版權の移動も含めて、業界の推移は古今を問わず目まぐるしい状況であることを感得できた。

山崎訳「犬とその影」の話そのものは、版を重ねてもすべて総字数180字程度で、実に簡潔にして明快な展開の話となっている。訓蒙部分の記載もなく、より確かなイソップ等の寓話を「イソップの作と傳へられるものを総て集収(収集か)した」とあるほど、翻訳文学史上の資料としてその価値は高い。底本は明記されていないが、当時の訳書としては多数のイソップやそれに付随するヘゾオッドやイースキロス作の寓話も数種盛り込み311話に上る話数を数える大作である。

第3に、作品番号18・32の昭和17年、昭和58年山本光雄訳は読者を子どもと想定したものではなく、ギリシャ語から丁寧に採録したもので、日本のイソップ寓話集の歴史上において不可欠の貴重な資料として位置づけられる。

第4の訳者として、作品番号27・33の二宮フサを挙げるができる。当該書の訳出底本としてはシャンプリ校訂のイソップ「寓話集」(Esope: Fables, texte

etabli et traduit par Emile Chambry; Paris, Les Belles Lettres, 1960. ギリシャ語原文とフランス語対訳)の全訳である。

山本、二宮共に、訓蒙をそのまま訳してギリシャ語底本に沿って処理している。原本への真摯な姿勢を受容できた。

両者ともに、今日、各国にみるイソップ原典情報も入手可能な状況下で、忠実に原書内容を網羅したものと評価したい翻訳者とする。

以上、翻訳の位置から検証してきた結果、時代に反映する物語の中で4人の翻訳家の存在を明示し、その具体的訳出話にアプローチした。結果、当然のことながら、昭和期は平成期に近づくにつれ翻案的物語は減少し、本来の原話を重要視する物語へと移ってきた傾向を検証できた。

6. まとめにかえて

(1)書名は時代の教育的背景を生かしたものが大半を占め、「ひらがなイソップ」系と「カタカナイソップ」系が目立つ。さらに全集本があふれ始めた時期と一致し、「世界童話全集」や「世界童話大系」のシリーズ本の1冊としてイソップ寓話があった。また「童話」としての翻案の扱いと、イソップの「寓話」を重視した翻訳とに大別できた。

(2)作品名は、「犬と影」の実写系、「大慾は無慾」の訓戒系、「小川をわたる犬」の解説風が目立った。

(3)犬と肉塊との関わりは「一片の肉を銜えて…」で

その入手法の記載なしがほとんどであったことは注目に値する。肉塊ではなく「魚の骨を銜えた犬」の話は皆無であったこと、当該分析の動機付けとなった「肉塊を盗む行為」の表現に及ぶ作品も2話に留まり、近代化が進んだ日本の教育に対する配慮が子どもの本出版界にもおよんでいることも認識できた。

(4)影の肉を欲する犬がすべてであり、自分の銜えた肉の他に他者の肉も奪おうとする型と、肉塊の大きさを比較し影の肉の大きい方を得ようとする型に二分できた。

(5)訓蒙の表記の有無では、「大慾は無慾(タイヨクハムヨク)」と確固たる信念をもって訓戒するタイプは1話のみであった。

(6)「犬とその影」の役割について

明治30年代に多く見受けられた「盗む」という表現が消滅していった傾向は、教育に対する役割の重さを反映していると共に、セレクトすべきキーワードについて、また、子ども向けの書籍に対する配慮が見えてきたことにならうか。訓蒙を教育のねらいとして日本で受け入れられたイソップ寓話の姿勢から考察すると、時代と共に教育へのねらいや方向性の推移を物語からも推測できる。それと同時に、一方的に押し付ける道徳律への権限の緩和なども現実的になったことが見受けられる。出版の特色として同一訳者の全く同一内容を数年ずつの年代を経ながら、異質の出版社から出版されたことも見逃せない一面である。経費節減の効を狙ったものとも言える。

表1 昭和期にみるイソップ寓話「犬とその影」分析対象作品一覧

NO	発行年	書名	訳者 (再話)	画家	出版社・ 発行所	タイトル	訓蒙 表記	犬の影に対する気づき	その他
1	1927(S2)年	小學生全集第3巻 イソップ童話集	菊池寛 譯 編	岡本帰一 村山知義	興文社 文藝春秋社	イストソノカゲ	なし	カゲヲミテ「オヤ、キサマモ ニクヲナクシテ シマツクノ カ、ヤレヤレ、オレハ ニキレ ノニクヲ タベソコナツタ」ト サケビマシタトサ。 気づきなし。	橋上から吠える
2	1929(S4)年 5月	世界童話全集 イソップ寓話集	山崎光子 解題： 松村武雄	不明	近代社	犬とその影	なし	かうして犬は二つの肉とも失 つてまつた。水の中で掴 みかかった肉の片(キレ)は、 たゞの影であったし、自分の 肉の片は、流れにおし流され てしまったから。	犬は水の犬に 跳びかかる。 挿絵あり *書誌情報/国 会図書館
3	1929(S4)年 7月	日本児童文庫 イソップ物語	新村出	宇都宮誠太郎	アルス	小川をわたる犬	文中に あり	さて、あの肉は。さっきは へてゐたあの肉は。赤い大き いあの肉は。	静かな森かげ、 澄みかえった 水面。犬は跳 びかかる

昭和期にみるイソップ寓話「犬とその影」の変容

4	初版 1930(S5)年 12月	世界童話大系 XVIII イソップ寓話集	山崎光子 解題： 松村武雄 中村白葉	武井武雄	誠文堂	犬とその影	なし	かうして犬は二つの肉とも失 つてしまった。水の中で掴 みかかった肉の片(キレ)は、 たゞの影であったし、自分の 肉の片は、流れにおし流され てしまったから。	犬は水の犬に 跳びかかる。 表紙赤色
5	初版 1930(S5)年 9月	カタカナ讀本 イソップ物語	深山 晃 編	萩野光風	発行 春洋社 販売 富文館	ヨクバリノ イヌ	なし	ジブノスガタヲミマシタ。	橋上から吠え る 挿絵あり
6	初版 1930(S5)年 12月 10版 1937(S12)年 1月	世界童話大系 XVIII イソップ寓話集	山崎光子 解題： 松村武雄 中村白葉	武井武雄	金正堂	犬とその影	なし	かうして犬は二つの肉とも失 つてしまった。水の中で掴 みかかった肉の片(キレ)は、 たゞの影であったし、自分の 肉の片は、流れにおし流され てしまったから。	犬は水の犬に 跳びかかる。 表紙青色
7	初版 1930(S5)年 12月 20版 1938(S13)年 4月	世界童話大系 XVIII イソップ寓話集	山崎光子 解題： 松村武雄 中村白葉	武井武雄	金正堂	犬とその影	なし	かうして犬は二つの肉とも失 つてしまった。水の中で掴 みかかった肉の片(キレ)は、 たゞの影であったし、自分の 肉の片は、流れにおし流され てしまったから。	犬は水の犬に 跳びかかる。 表紙青色
8	初版 1933(S8)年 3月 第24版 1936(S11)年	日本イソップ 繪物語	村岡花子 著	河目悌二	大日本雄辦 會講談社	犬ノカゲ	なし	「ケンクスレバ キット ボ クガカツカラ……」	橋上から吠え る 挿絵あり
9	初版 1933(S8)年 4月 第38版 1936(S11)年	キンランセカイメ イチヨ イソップものがたり カタカナ1年生	谷崎 伸 編	不明	金蘭社	ヨクバリ イヌ	タイヨ クハ ムヨク	キレイナ コガワの ハシノ ウエ ウツクシイ ミヅニ ウ ツツテ ヲリマシタ ホンノ スコウシヨクバツタイヌハ ジ ブノモノマデモ スッカリナ クシテ…	橋上から吠え る 挿絵あり
10	初版 1934(S9)年 9月 5版 1934(S9)年 11月	世界童話大系 XVIII イソップ寓話集	山崎光子 解題： 松村武雄 中村白葉	武井武雄	誠文堂・ 金正堂	犬とその影	なし	かうして犬は二つの肉とも失 つてしまった。水の中で掴 みかかった肉の片(キレ)は、 たゞの影であったし、自分の 肉の片は、流れにおし流され てしまったから。	犬は水の犬に 跳びかかる。 表紙変更
11	1935(S10)	カナ・イソップ	巖谷小波 監輯	横山蕪次	少年日本社	犬ノ水カガミ	文中に あり	ヨクバリヲ シタ犬ハ……	橋上から吠え る 挿絵あり
12	1936(S11)年	カタカナノ巻 繪入イソップ物語	酒井朝彦 新訳		日本圖書 出版社	イヌ ト カゲ	文中に あり	キレイナ水ノナガレテキル 小川ガ アリマシタ。水ハヨ クスンデ…犬ハ ソノママ ウ シナツテ	橋上から吠え る 挿絵あり
13	1937(S12)年 3月	子供が良くなる講 談社の繪本 イソップ繪話	八波則吉	黒崎義介	大日本雄辦 會講談社	イヌノ ヨクバリ	なし	余分な表現なし	ニクノツイタ ホネ 繪本として登場
14	初版 1937(S12)年 5月 6版 1939(S14)年	ひらがなイソップ	久米元一 著	寺田修康 羽島古山	金の星社	よくばりの犬	なし	余分な表現なし	橋上から吠え る
15	1937(S12)年 12月	イソップ物語	立石美和 譯	装幀 黒崎義介	金の星社	犬とその影	なし	折角くはへてゐた、自分の肉 が、パタリと落ちて、深い川 の底へ沈んでいつてしまひま した。	橋上から吠え る
16	初版 1938(S13)年 1月	カタカナノ巻 繪入イソップ物語	酒井朝彦 新訳		日本圖書 出版社	イヌ ト カゲ	文中に あり	キレイナ水ノナガレテキル 小川ガ アリマシタ。水ハヨ クスンデ…犬ハ ソノママ ウ シナツテ	橋上から吠え る 挿絵あり 12と同じ
17	初版 1938(S13)年 12月 2刷 1939(S14)年 1月	少年少女世界文庫 第十五編 イソッ プ物語	新村出譯	兒島喜久雄	小山書店	小川をわたる犬	文中に あり	さて、あの肉は、さっきは へてゐたあの肉は、赤い大き いあの肉は、	静かな森かげ、 澄みかえった 水面、犬は飛 び込む 3に同じ
18	初版 1942(S17)年 68刷 1995(H7)年	イソップ寓話集 (岩波文庫)	山本光雄 訳		岩波書店	肉を運んでい る犬	この話は、欲 張りの人によ く当てはまる ものです	彼は両方とも失うようなこと になりました……	犬は跳びかか る。 原文に忠実な 訳で…
19	1946(S21)年	イソップエホン	中彰 尾 (ママ)著	文並繪 ナカオア キラ	新泉社	ヨクバリ	なし	ミズニ イヌノスガタガウツ リマシタ…一般的な犬と見る	ホネラクワヘ テ… 橋上から吠え る 挿絵あり

20	1947(S22)年	イソップ物語	新村出著	装丁・挿絵 兒島喜久雄	東京出版	小川をわたる犬	文中にあり	さて、あの肉は。さっきはへてゐたあの肉は。赤い大きいあの肉は。	静かな森かけ、澄みかえった水面。犬に跳びかかる3に同じ
21	1949(S24)年	AESOP'S FABLES イソップ物語	齋藤 秀 譯註		東京 研文書院	犬とその影	その考えはどんなものであつたと思ひますか	Some say that it was stolen...それは盗んだのだと云ふ者もあるが、又肉屋に貰つたのだと…その水は静かに澄んでゐたので… 肉めがけてばかりと咬みついた	英語訳書その日彼は自分の考えしか食べるものがなかった
22	初版 1953(S28)年 6版 1955(S30)年	トツパンの繪物語 イソップ1	川端康成 文	村上松次郎	KKトツパン	よくばり犬	よくばりは、大ぞんもどです。	1びきの犬が、肉屋から肉を一きれぬすみだしました。	橋上から吠える挿絵あり
23	1963(S38)年 23版 1972(S47)年	世界名作童話全集 12 イソップ物語	田中豊太郎 編著	川本哲夫	ポプラ社	はしの上のいぬ	なし	きれいな水がゆっくりとながれて…。しまったとおもつて…川のなかには、うらめしそうなかおをしたいぬのかけが、あるだけでした。	さかな挿絵あり
24	1966(S41)年	世界の童話1 イソップのお話	訳者名なし 解説： 波多野勤子 奈街三郎 後藤檜根	岩本良信 他11名	小学館	みずとうつたかけ	欲ばって、自分のたいせつなものを、見失うことがあります。	「しまった。ぼくのすがたが、みずとうつっていたのだ」直接説明の不要な表現がある。	犬の名ジョンほね
25	1967(S42)年	少年少女世界の名作文学 イソップ寓話	信田秀一	安 泰	小学館	犬の影	文中にあり	けんかをして肉切れを奪い取ってやろう…じぶんの姿が、水に映った影だったので。	
26	1969(S44)年	世界の幼年文学(1) イソップ童話	村岡花子 著	山中冬児	偕成社	よくばりな犬	文中にあり	水底の犬がじぶんの影だったことに気がついて…	水はずんでいて、底の小石も、すいすいと泳いでいる小さなさかなもよく見えます。挿絵あり
27	1971(S46)年	イソップの寓話	二宮フサ	15世紀に出版された「イソップ寓話集」の挿絵あり	白水社	肉をくわえた犬	この話は、欲張りの人たとなえである。	どちらもふいにしてしまった。というのは、一方の肉は実際に存在しなかったのだから…	犬は跳びかかる。
28	1973(S48)年	講談社の幼稚園百科 イソップどうわ	井上 靖 編集 波多野完治 湯川秀樹 顧問 那須辰造 監修 村山桂子 文	西島武郎 他3人	講談社	いぬのよくばり	よくばると、いまもっているものまでなくしてしまいます。	「あっ だいすきなほねだ！」いぬはいつまでもくやしそうに川の中をみていました。	ほね
29	1975(S50)年	イソップ物語 —アイソポス風の 譬え話集成—	松下仁治		けいざい春秋社	肉を運ぶ犬	この譬え話は、一層大きい物を騙って、自分が持っている物を失う、欲張りの人に当てはまる。	ギリシャ語からの完全訳	犬は跳びかかる。
30	1978(S53)年	フジヤのえほん 名作童話絵本 イソップ	編集兼 発行 石川正雄	山岡勝司	富士屋書店	よくばりないぬ	なし	文章だけでは、理解を深められないのではないか。絵が文章表現を補充している。	にくのついたほね
31	1982(S57)年	イソップ寓話集 I AESOP FABVLAE	渡辺和雄	G・オーパーレンダー	小学館	肉をくわえた犬	これはよくばりにしてやす話です。	かげにむかってつき進みました。どちらの肉もなくなってしまいました。	
32	1983(S58)年	岩波クラシックス イソップ寓話集	山本光雄 訳		岩波書店	肉を運んでいる犬	この話は、欲張りの人によく当てはまるものです。	彼は両方とも失うようなことになりました……	犬は跳びかかる。原文に忠実な訳で…
33	1983(S58)年	かいせいしゃぶんこ イソップ童話下	二宮フサ		偕成社	肉をくわえた犬	この話は、欲張りに聞かせる話です。	どちらもふいにしてしまった。というのは、相手の肉ははじめからなかったのだから…	犬は跳びかかる。

引用・参考文献

話集』 近代社 1929

- 1) 小林雅代『保育に生かすパネルシアター』2002 アイ企画 pp31-36
- 2) 谷出千代子「イソップ寓話の変容と寓意性—明治・大正期出版『犬とその影』をめぐる—」『仁愛大学研究紀要人間生活学部篇(第2号)』2010 pp109-120
- 3) 渡部知新『通俗伊蘇普物語卷之一』1872
- 4) 中川芳雄解説『古活字本 伊曾保物語 国立国会図書館所蔵本 影印』1994 勉誠社 p98
- 5) 山本光雄訳『イソップ寓話集』1995(初版1942) 岩波書店 pp145-146
- 6) 大英図書館蔵 福島邦道解説『天草版 伊曾保物語』1983(初版1976) 勉誠社 pp39-40
- 7) 飯野純英校訂／小堀桂一郎解説『古活字版 伊曾保物語 大学古典叢書7』1986 勉誠社 pp65-66
- 8) 注6に同じ
- 9) 注4に同じ
- 10) 『新村出 柀源一校注 日本古典全書 吉利支丹文学集 下』朝日新聞社
- 11) 前田金五郎 森田武校注『日本古典文学大系 仮名草子集』岩波書店
- 12) 注3に同じ
- 13) 譯術：栗野忠雄『AESOP'S FABLES 直譯講義全書 第壹篇 伊蘇普物語真譯講義 全』1897青野天章閣pp4-6
- 14) 菅野徳助・奈倉次郎譯註『青年英文學叢AESOP'S FABLE』1912(明治44年初版) 三省堂三版 pp8-12
- 15) 村上勝也「イソップ寓話変容考—犬が肉を含んだ事について(1) 』『広島文教女子大学紀要311996 pp31-40
- 16) TRANSLATION:V・S・VERNON・JONES/INTRODUCTION:G・k・CHESTERTON/ILLUSTRATIONS:ARTHUR RACKHAM『ASOP'S FABLES』A FACSIMILE OF THE 1912 EDITION GRAMERCY BOOKS(NEW YORK) p75
- 17) 青溪散史譯『ESOP'S FABLE新譯伊蘇普物』1905(明治25初版) 積善館
- 18) 文部省『尋常小學讀本二』1904 日本書籍株式會社
- 19) 八波則吉 1901年, 東京帝国大学国文科を卒業. 金沢の旧制第四高等学校の教授. 五高では, 当時教授であった夏目漱石に薫陶を受ける. 文部省『尋常小学唱歌』の編纂委員を歴任. 作詞の芳賀矢一(委員長), 吉丸一昌, 佐々木信綱, 上田万年などとともに編纂に尽力した.
- 20) 菊池寛譯編 岡本帰一・村山知義繪『小學生全集第3巻 イソップ童話集』1927 興文社・文藝春秋社
- 21) 文部省編輯局『尋常小學讀本二』1887文部省編輯局藏版
- 22) 注18に同じ
- 23) 山崎光子譯 解題松村武雄『世界童話全集イソップ寓